

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)高槻市別所中の町計画	階数	地上7F
建設地	大阪府高槻市別所中の町	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第一種	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2022年7月14日
敷地面積	5,425 m ²	作成者	田中
建築面積	1,477 m ²	確認日	2022年7月20日
延床面積	7,694 m ²	確認者	川端



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		その他
総合 シンプルでメンテナンス性の良い建物デザインで快適な居住空間と、緑豊かな植栽計画で周辺の街並に調和する景観の創出を図る。		
Q1 室内環境 室内環境の向上を目指し、F☆☆☆☆建材を使用している。	Q2 サービス性能 バリアフリーに配慮し人にやさしい建物とした。	Q3 室外環境(敷地内) 沿道路化に努め、うるおいのある地域環境創りに配慮した。
LR1 エネルギー 全戸2方向以上で外皮に面する計画とし、有効な採光・通風が確保できる計画とした。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない建材種別を採用している。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ の排出量をできるだけ低くするように努め、地球温暖化に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)高槻市別所中の町計画 新築工事					
	建設地	高槻市別所中の町					
	用途/区分	集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					3	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
	エネルギー消費量の報告					対象外	
【評価項目】							
	項目	評価内容				スコア	評価
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.3	3
②	みどり・ヒートアイランド対策						
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				2.0	
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				2.0	
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				3.0	3
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				5.0	5
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	○
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	-
その他							
		技術の名称			考慮事項		
	先進的技術の導入						
	特に配慮した事項						